

### 新本庁舎建設 ニュースNo. 8



#### 1階床までの骨格部分の工事がもうすぐ完了します

11月上旬に免震装置64基の設置が完了し、上部の1階床工事が始まりました。12月末までに1階床コンクリートの打ち込みが終了する予定です。

来年1月中旬からは、鉄筋コンクリート製の柱と梁が県内の工場から現場に搬入されます。梁が一番長いもので約11メートルあり、現場で組み立てられた後に、さらにワイヤー状の鋼線が両側から引っ張ります。この作業により強度が増すことから、免震装置と合わせて防災拠点として丈夫な建物になります。

新本庁舎の周辺では、これから徐々に建物の柱・梁が出来上がっていく様子を見ることができます。



建設中の新本庁舎（11月29日撮影）

#### 第2回現場見学会を開催

11月17日に現場見学会を行い、49人の皆さんが参加。免震装置について見学しました。



本庁舎内庁舎建設推進課

☎71・2000(代) ☎71・5000

### ■平和への祈りを込め 平和のつどい開催

市では、11月23日、第3回平和のつどいと戦没者追悼式を、堀金総合体育館サブアリーナで開催しました。今回は、昨年12月に安曇野市平和都市宣言が制定されて以来、初めての開催で、約250人が参加しました。

第1部の戦没者追悼式では、遺族関係者などが出席し、戦禍の犠牲となられた郷土の方々

へ追悼の祈りをささげました。

第2部の平和のつどいでは、本年8月に広島平和祈念式に参加した市内中学生の代表7人が、戦争や平和への思いをつづった作文を発表しました。

続いて、長年社会科の教員を務めた原山茂夫さん（長野市）が大戦末期、山中に設営された松代大本営（長野市）の解説の



平和祈念式に参加して作文を発表する中学生

ほか、平和のため命懸けで行動をした県内出身者について講演しました。

原山さんは「現在の社会情勢をみると、日本が再び戦争に向かっているように感じる」と話し「恒久平和への取り組みを継続していく必要がある」と会場に訴えました。

### ■南部多目的運動広場の工事始まる

南部多目的運動広場（豊科高家）の起工式が12月2日、現地で行われ、市や工事の関係者約80人が出席し工事の安全を祈りました。

起工式で宮澤市長は「多くの市民の皆さんが集い、スポーツを通じた健康づくりの場になることを期待しています」とあいさつしました。

これまで市内に大会等を開催

できる十分な競技施設がなかった、リトルリーグチームなどの競技団体から施設整備の要望があったことから整備を進めるものです。また、市営県民豊科運動広場（豊科南穂高）の改修により取り壊した施設に代わるアーチェリー場も整備します。敷地面積は約2万7000平

方メートル、野球・ソフトボール、サッカーで使用できる多目的運動広場のほか、少年用サッカー場、アーチェリー練習場、駐車場などを備える予定です。

総事業費は約3億6640万円の前定で、主な財源に合併特例債を活用します。完成は平成26年5月を予定しています。



南部多目的広場建設用地

### ■新たな産業振興策「安曇野モデル」を提案

市産業振興連携推進会議（齋藤正昭会長）は、市が目指す田園産業都市の実現に向けた新たな産業振興策（安曇野モデル）について提案をまとめ11月18日、本庁舎で宮澤市長に提案書を手渡しました。

提案書では、地域資源（市内の農林水産物）を活用し、かつ市内の異業種事業者が連携（第1次産業事業者と第2次産業事

業者、または第3次産業事業者）

した取り組みで、新商品の開発や販路・流通の拡大・開拓する仕組みを「安曇野モデル」として提案しています。

この安曇野モデルの推進に向けて、市内の農業従事者や中小企業の事業者への相談・助言などの支援体制を充実させるため、民間経験豊かな人材を調整役として配置することや、新規



宮澤市長に提案書を手渡す齋藤会長

事業を起こす場合に必要となる経費への助成制度などを提案しています。また、市内から発信される商品や情報等に対して市のロゴマークやキャッチコピーを付帯する取り組みを進めることについても提案しています。市では「安曇野モデル」構築に向け、提案内容を市の産業振興や具体的な施策に反映していく予定です。